

令和二年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問四までであり、1ページから13ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目(例：

)がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番



問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。

- 1 産業の発達を阻害する。
- 2 現場に資材を搬送する。
- 3 試合を途中で棄権する。
- 4 顔の汗を拭う。

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 社長としてのキリヨウがある。
- 1 キゾクのくらしについて学習する。
 - 2 たくさんのトウキを焼く。
 - 3 キソクを守って仕事をする。
 - 4 キセツの移り変わりを感ずる。
- b 全員でドウヨウを歌う。
- 1 実験でドウバンを加熱する。
 - 2 セイドウで礼拝を行う。
 - 3 ロウドウすることで賃金を得る。
 - 4 ジドウが集団で下校する。

- c ハンケイの長さを求める。
- 1 定価のハンガクで販売する。
 - 2 ボウハンのために街灯を設置する。
 - 3 ユウハン of 支度を始める。
 - 4 ハンガの展覧会に行く。

- d 帰宅したらすぐに手をアラう。
- 1 古代史をケンキユウする。
 - 2 重要なアンケンを処理する。
 - 3 詰め替え用のセンザイを購入する。
 - 4 オンセンに入って疲れをとる。

(ウ) 次の各文の□にはすべて同じ漢字一字が入る。その漢字として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

一人一人の個性に□目する。
遅れずに会場に□く。

首飾りを□ける。
冷えてきたのでコートを□る。

- 1 着
- 2 注
- 3 寄
- 4 付

(エ) 次の文中の□に入れる敬語表現として誤りのあるものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

先生が私たちの作った昼食を□。

- 1 お食べになる
- 2 召し上がる
- 3 食べられる
- 4 頂く

(オ) 次の文章中の に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

武道に関心のあった姉は、高等学校に入学してから、念願の弓道部に入部して熱心に活動している。
まさに だと思った。

- | | |
|---------|---------|
| 1 犬の遠吠え | 2 豚に真珠 |
| 3 水を得た魚 | 4 蛙の子は蛙 |

(カ) 次の文章は、ある古典文学作品について説明したものである。その古典文学作品の作者として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」という書き出しから始まる、平安時代に書かれた随筆である。日常生活で経験したことや、自然や人事についての感想などを書き留めている。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1 兼好法師 | 2 小野小町 | 3 清少納言 | 4 藤原定家 |
|--------|--------|--------|--------|

(キ) 次の短歌を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

齋藤史

- 1 帆を張り出港に向けて準備をしている様子を、「白い帆」という色彩を表す語句を用いて、帆の白さと海の青さを対比させながら鮮やかに描いている。
- 2 小高い所に来た自分の袖が風ではためく様子を、「白い帆を張れば」という語句を用いて、自分自身を海賊船に見立てながら効果的に描いている。
- 3 白い帆を張って勢いよく進んでいる船の船首で勇ましく風を受けている様子を、「海賊のうた」という語句を用いることで、躍動的に描いている。
- 4 海の近くにある小高い所から船に向かって両腕に持った旗で合図をしている様子を、「うた」という語句を用いることで、リズムよく描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「オレ」や「中谷琴海」「沢村可南子」「門井」「水口」「木下雪美」たちのいる栗山小学校六年一組は、担任の「山セン」のもと、三十人三十一脚に挑戦している。大会まであと五日に迫るなか、キャプテンの「オレ」は足をケガしてしまい、放課後の練習を見学することにした。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(いとう みく「ぼくらの一歩 30人31脚」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) トーンⅡことはの調子。

フォローⅡ足りない点を補助すること。

モチベーションⅡ物事を行う意欲。

(ア) —線1「最初のころは、真つすぐ一列に並ぶだけでも時間がかかったんだよな。」とあるが、そのときの「オレ」の気持ちを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 挑戦を始めたころはたどたどしい動きも多かったが、いまや全員が自主的に動けるようになってお互いに声をかけあいながらスタートを切る姿を見て、強く感動している。
- 2 挑戦を始めたころはたどたどしい動きも多かったが、いまでは日々の練習の成果がスタートラインに並ぶまでの動作にさえ表れていることに気づき、感慨深く思っている。
- 3 挑戦を始めたころのたどたどしかった動きを思い出し、自分たちの成長を喜ぶとともに現状に満足することなく気を引きしめていかなければならないと、決意を固めている。
- 4 挑戦を始めたころのたどたどしかった動きを思い出し、自分が見学していても速やかに行動できるようになったことを誇らしく思うとともに、少し寂しさを感じている。

(イ) —線2「あー、とため息のような落胆の音が校庭の真ん中でいくつもこぼれた。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 大会に向けて練習を重ねてきたが、本番が差し迫っているにもかかわらず転倒してしまったことで、六年一組の多くが気落ちしている。
- 2 列が乱れたものの最後まで走り切れると思っていたが、笛が鳴ったことで転倒してしまい、六年一組のほとんどが不満に思っている。
- 3 学校をあげて六年一組の挑戦を応援していたが、転倒してしまったことで、多くの下級生たちが残念に思う気持ちを隠せずにいる。
- 4 わずかな乱れを修正できず転倒してしまい、覇気がなくなった六年一組の姿を見ることで、応援していた下級生たちが失望している。

(ウ) —線3「ムリでもムリすればムリじゃなくなることだってあるんだもん。」とあるが、ここでの「水口」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 勝つことを諦めている自分とは違って、「中谷」のことばに流されかけているみんなを説得するように強い調子で、はっきりと読む。
- 2 諦めなければ勝ると強がってみせたが、「沢村」のことばを聞いてやはり無理だと感じたことが伝わるように、声を震わせて読む。
- 3 「中谷」のことばがきつかけとなり、一生懸命に取り組めばうまくいくこともあると思わず口からこぼれ出たように、小さな声で読む。
- 4 「沢村」のことばに一瞬怒りをおぼえたものの、これ以上六年一組の雰囲気が悪化にならないようにわざと明るい調子で、一息に読む。

(エ) —線4「水口はびくっと肩をゆらして顔をあげた。」とあるが、そのときの「水口」を説明したもののとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 転倒の原因が自分にあると思いきや、だれも遅れていなかったという「オレ」のことばを意外に思っている。

2 みんなから非難ばかりされていたので、だれも遅れていなかったという「オレ」のことばを信じることができずにいる。

3 だれも遅れていなかったという「オレ」のことばで、努力は必ず報われるということを再度実感して自信をつけている。

4 だれも遅れていなかったという「オレ」のことばによって、みんなが自分に合わせてくれていたことを知り驚いている。

(オ) —線5「えー、オレ!？」とあるが、そのときの「門井」を説明したもののとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「沢村」のせいで転んだと思っていたが、転倒の原因にあげられてしまいみんなの前で恥をかかされたので、おどけることでごまかそうとしている。

2 「水口」に合わせるために力を抜いて走っていたが、列をゆがませた原因だったと指摘されて、調和を乱さずに走ることの難しさを感じて困惑している。

3 「沢村」とともにバランスを崩した原因だったと指摘されたが、普段通りに走っていて迷惑をかけるつもりはなかったため、驚きを隠せないでいる。

4 「水口」ではなく自分だけが転倒の原因として指摘されたことは予想外だったが、クラスに漂う重い雰囲気や和らげるため、大げさに反応している。

(カ) —線6「オレたちならできる気がするんだ。」とあるが、それを説明した次の文中の I II に入れる語句として最も適するものを、本文中の▼から▲までの中から、 I II については三字で、 II については六字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

みんなの気持ちをひとつにするという I な意味ではなくて、お互いに力をひきだしフォローしあえる形を作るといふような意味での II を大事にすることで、タイムを縮めることが自分たちにはできると考えているということ。

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 一人一人が抱えている課題をお互いに指摘しあって地道に克服していきながら、優勝を目指して少しずつ六年一組が力を合わせていくさまを、「オレ」の視点を通して感動的に描いている。

2 大会前にタイムが縮まず重い空気だったが、「水口」の何気ないことばをきっかけに課題の解決に向けて六年一組が協力しようとするさまを、会話を多用することで印象深く描いている。

3 大会を目前に控えた練習で思いがけず言い争いが起こったものの、「山セン」の適切な指導により六年一組が少しずつまとまっていくさまを、話し言葉を用いて親しみやすく描いている。

4 外から見ていた「オレ」が気づいた課題を指摘することで、伸び悩んでいた六年一組が勝利を目指して取り組もうとするさまを、多くの登場人物の会話を通して生き生きと描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(注) プロセスⅡ手順。過程。

(細川^{ほそがわ} 英雄^{ひでお}「対話をデザインする」から。一部表記を改めたところがある。)

(著作権上の都合により省略)

(ア) — 線1「人と人がつながる」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 他者を深く理解してお互いの価値観を同化させることにより、多様な個人がともに生きていくことができるということ。

2 それぞれの人の感覚や思いが一つになることで、ある物事に対して他者と一つの価値観を共有することができるということ。

3 顔や名前といった外面的な情報だけではなく、お互いの思考や価値観といった内面的な部分も含めて深く理解すること。

4 相手がどのような価値観を持っているかを知るだけではなく、自分の考えを相手に近づけていく方法も深く理解すること。

(イ) — 線2「人として生きる」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 異なる個人がともに生きることを通して、社会の常識を身につけていくということ。

2 相手の自分勝手な行動を認めることなく、お互いを監視しあつて生きていくということ。

3 他者の考えを容易に受け入れることなく、自分らしい生き方を確立していくということ。

4 それぞれの個人がお互いのことを認めあいながら、自分らしく生きていくということ。

(ウ) — 線3「個人の願望や欲望は、社会の秩序というものでコントロールされている」とあるが、それを説明した次の文中の I II に入れる語句として最も適するものを、本文中の▼から▲までの中から、 I II については五字で、 II については三字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

形や中身が個人で異なる I II によって願望や欲望をすべて押さえようとしても、押さえ込む人と押さえ込まない人がいるので、お互いに守るべき II を定めて牽制することにより願望や欲望を制御しているということ。

(エ) — 線4「自由の基本概念」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 他者とともに安心して生活するための社会秩序に反しない範囲で、自分の願望や欲望を可能な限り実現していくということ。

2 社会秩序はだれかが勝手に定めたものなので、決まりにとらわれず自分の願望や欲望を思い通りに実現していくということ。

3 他者と安心して暮らすために構築されてきた社会秩序はあるが、他者を意識することなく勝手気ままに生きていくということ。

4 長い時間をかけてつくりあげられてきた社会秩序を維持しつつ、自分の考えを他者へ向けて積極的に発信していくということ。

(オ) —線5「対話によってのみ真に自由になるための入り口に立つことができる」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 対話という活動は自分の考えを明確にし、他者との関係にとらわれることなく、自分らしく生きるためにはどのようなにすればいいのかということ深く考える機会をつくりだすから。
 - 2 対話という活動を通して他者の考えを知り、相手も自分と同じ欲望を抱いていると理解することで、それぞれの望みを実現するにはどのようにすればいいのかを考える機会になるから。
 - 3 対話という活動によって自分の考えを整理し、相手に自分の思いを伝える方法を模索しながら、自分の欲望をかなえるためにはどのようにすればいいのかを考える機会につながるから。
 - 4 対話という活動は他者が考えていることを理解し、自分との違いを認識するとともに、他者の思いを実現するためにはどのようにすればいいのかということを考える機会を生み出すから。
- (カ) 本文について、中学生のAさん、Bさん、Cさんの三人がグループで話し合いをした。次の文章は、そのときの一部である。話し合いの中の□に入れるものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

Aさん この文章は、「対話」の重要性について書かれていましたね。筆者は「対話」という活動によって、人と人がつながり、その上で人が人として生きていくことができるということを書いていました。

Bさん そうですね。また、「人が人として生きる」ために、筆者は「自由」についても論じていました。

Cさん 「対話」と「自由」の関係はどのように述べられていますか。

Aさん 筆者は、「自由」を述べる上で、「願望や欲望」について言及していました。

Bさん そうでしたね。また、「願望や欲望」を押さえ込み、社会の中で自分と他者が生きていくために、国における法律や自治体の条例の役割についても述べていました。

Cさん 法律や条例がわたしたちの生活を支えていて、そのおかげでわたしたちは他者とともに安全に暮らしているのですね。

Bさん やはり、社会で「自由」に生きていくために、「対話」をすることは重要になってくるのですね。もし、「対話」という活動がなかったら、人とつながることがむずかしくなってしまうということですね。

Aさん つまり、「対話」という活動は、□において、重要な意味を持つのですね。

- 1 集団での生活を意識し、社会での振る舞い方を改めていくこと
- 2 自分自身を見つめ直し、他者より自分の望みを優先していくこと
- 3 他者の思いを理解し、自分より他者を優先して生きていくこと
- 4 自分や他者を知り、社会の一員として自分らしく生きていくこと

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

三海上人は木食にて、(注) (立ったままでいる修行を行い) 藪の中に三年立行をつとめ、湯殿山に年ごとに詣でし人なり。(おまいりした) 然るに壬生の辺、(注) (みせなまきやう)

三年日照りせしに、里人この上人を招きて、雨を祈らんことを望む。上人曰はく、「我祈らば、いかなる

早魃なりとも、降らさずといふことあるべからず。」(注) (引き受けなされたので) とうけがはれしを、妬む僧多し。かくて、上人七日

断食して、丹誠をぬきんでて、祈られける。(注) (真心を込めて) 七日にあたる日までしるし見えざりしかば、僧あまた来て、

耳いたく言ひけれども、物の数ともせず祈らるるに、その日の未の刻ばかりに、青天に傘ほどの黒雲一む

らたち来り、次第に広くなり、(注) (雨が激しく降ったので) 雨篠をつくがごとく降りしかば、始めそしりし僧どもは面目を失ひて、帰

りける。また、程ちかき幸手の宿に、「雷を封ぜん。」(注) (雷が激しく降ったので) として雷の祠を造立せられ、この祠の道幅広きを庄屋

より狭めしかば、上人「なにとてかくはするぞ。返すべし。さもなくば、雷の祟りあるべし。」(注) (どうしてこのようにことをするのか) と言はる

れども、用ゑざりしに、雷電たちまちおこりて、庄屋が家に落ちかかり、家内に鳴りはためくこと七日七

夜におよびしかば、迷惑やるかたなく騒ぎおそれて、先非を悔い、「永代よこしまなること³を仕らじ。」(注) (過去のあやまちを後悔して) と

嘆きしかば、「この上は。」とて祈り返さる。それよりいよいよ人々信仰浅からずとなり。

(一) 本朝諸仏霊応記「から。」

(注) 木食 木の実や草などを食べて修行をすること。

湯殿山 現在の山形県にある山。

壬生 現在の栃木県の地名。

早魃 長い間雨が降らず、農作物に必要な水がかれてしまうこと。

未の刻 現在の午後二時ごろ。

幸手の宿 現在の埼玉県にあった宿場町。

庄屋 村の長。

(ア) 〰〰線部の主語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 三海上人

2 里人

3 僧ども

4 庄屋

(イ) 線1「七日にあたる日までしるし見えざりしかば」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「僧ども」は雨を降らせてもらう約束をしたものの、「三海上人」が祈り始めてから七日たった時点でも、靈力を発揮している様子がいつかに見られなかったということ。

2 「僧ども」は雨を降らせないようにするために、祈りに用いる道具を準備しなかったところ、「三海上人」は七日たっても雨を降らせる約束を果たせなかったということ。

3 「三海上人」はどんな場所でも雨を降らすことができると思言していたので、「里人」たちも期待し一緒に祈ったが、七日過ぎてもまったく雨は降らなかったということ。

4 「三海上人」はどんな日照りであっても雨を降らすと「里人」に宣言して、真心を込めて祈り始めたが、七日目になっても雨の降る気配は感じられなかったということ。

(ウ) 線2「始めそしりし僧どもは面目を失ひて、帰りける。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「僧ども」は、「三海上人」が祈りにより雨を降らせたことで、立場を失って帰ったということ。

2 「僧ども」は、「三海上人」が雨を自在に操ったことにより、恐怖をおぼえて帰ったということ。

3 「僧ども」は、「里人」の要求に応えることができず、申し訳ないと思つて帰ったということ。

4 「僧ども」は、「里人」から慰められたことで、いたたまれない気持ちになって帰ったということ。

(エ) 線3「永代よこしまなることを仕らじ。」とあるが、「庄屋」がそのように言つた理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 忠告を聞かずに祠の道幅を狭めたことを罰するために、「三海上人」が七日七夜にわたつて雷を呼び寄せたところ、雷の音の大きさに驚いた「庄屋」が自分の身勝手さを悔いたから。

2 祠の道幅を狭めた「庄屋」が、雷の祟りがあるという「三海上人」の言葉を真に受けなかったところ、家の中で七日七夜にわたつて雷が鳴り響いたことで困り果ててしまったから。

3 「三海上人」の人氣を妬んだ「庄屋」は、祠の道幅を狭めて嫌がらせをしたところ、「三海上人」に言われた雷の祟りが七日七夜にわたつてあったことで自分の愚かさに気づいたから。

4 自分のことだけを考えていた「庄屋」は、自分の敷地を広げるために祠の道幅を狭めたところ、他人のために七日七夜にわたつて祈る「三海上人」を見てこれまでの行動を恥じたから。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「三海上人」は皆の意見に耳を傾けて、僧たちとの調和を大切にしながら行動したことで、人々から一段と尊敬された。

2 「三海上人」は皆と力を合わせて、生活がよりよくなるように努力し続けたことで、ついに人々に受け入れられた。

3 「三海上人」が困っている人を助けるために雨を降らせ、雷を止めたことで、人々の信仰心はますます深くなった。

4 「三海上人」が天候を操作して、自分のことしか考えない人に罰を与えたことで、人々はより一層仏の教えを聞いた。

(問題は、これで終わりです。)

